（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス　ぱれっとおもろまち			
○保護者評価実施期間	2025年　3月　1日	～	2025年　3月　31日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	8	（回答者数）	5
○従業者評価実施期間	年　月　日	～	年　月　日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	7	（回答者数）	7
○事業者向け自己評価表作成日	2025年　3月　31日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	適切な支援の提供	・日々の振り返りを全職員で行い、共通した支援を行う。 ・児童の特性に合わせた個別課題への取り組み	各種研修参加や、ケース会議の開催などによりを職員一人一人のスキルアップを目指す。
2	保護者や関係機関との連携	・保護者が孤立せずに、自由に相談しあえる関係性づくり。 ・家族のレスパイトの時間の確保や預かりニーズに対応するための延長支援 ・子育て、障害に対する情報提供	・母親同士の関係性はできてきたが、父親同士の関係性の構築に努めたい。→父親主体の行事の企画等 ・兄弟児に対しては、個別に相談などは受けている。「兄弟児同士の交流」については、兄弟といっても、年齢の幅が「乳児から中学生まで」いるなかでどのような交流の目的、十分に検討して取り組む必要があると考えている。
3	安心・安全な場の提供	・非常時の対応については各種マニュアルを設定、訓練と改善を定期的に行っている。 ・児童の日々の体調・情緒の状態について保護者と連携し、その日の様子に応じた支援を行う。	・様々な災害を想定し、どの場合でも最適な対応できるようにしていきたい。 ・利用児が自分自身で、自分の体調や気持ちを表現できるようになる支援を行っていく

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域との関り	商業施設多く、県外からの移住者も多い振興都市地域。地域住民がそもそも孤立しやすい環境にある。	・自治体や地域の協力機関との連携をより密に行うとともに、SNSなども活用し、この事業所の取り組みを必要とする地域住民が、より身近に気軽にサービスへ繋がれるよう努めていきたい。
2	事業所設備のバリアフリー	・事業所の設置条件等により完全なバリアフリー化は難しい状況にある。	・バリアフリーの課題は、「階段や段差をなくす」などの物理的な解決方法ではなく、「人による介助や見守り支援を丁寧に行う」ことで対応していく。
3	児童が選択して一人で過ごせる場所の提供	利用児童の年齢が低いこともあり、安全面の問題等から「児童の選択」により、個室を提供することについては慎重にならざる負えない状況にある。	児童の集中のしやすさ、不穏に陥った際の対応として「音」や「視界」を出来る限り遮断し、落ち着くことができる場所は必要。その場合はパ＾テーションやくつろげるクッションなどを使用する等の工夫を行っていく。